



服部 力 Hattori Tsutomu
研究ディレクター

台風が去った翌朝、根本からなぎ倒された街路樹や公園樹を見かけることがあります①。こうした木を観察してみると、その多くは根本付近の幹が内部からボロボロに腐っていることがわかります。その犯人はきのこ類で、特に「サルノコシカケ」と総称されるきのこの仲間には生きた木の材を腐らせてしまう種類が多数含まれます②。人工林におけるヒノキやカラマツなども、サルノコシカケ類が内部の材を腐らせることがあります。腐れが進行した木は、もはや建築材などとして利用することはできません。

「生きた木の材が腐る」という現象は、天然林でも普通に見られます。しかし、これは必ずしもネガティブな営みではありません。生きた木の内部が腐ることによって形成される樹洞は、鳥類や小動物の恰好の住処になります。また、腐った大木が倒れることによって森林内にできる明るい場所には、そうした場所を好む

サルノコシカケ類は、木を腐らせるスペシャリスト

植物が繁茂し、次世代を担う若木が成長しはじめます。

サルノコシカケ類をはじめとする木を腐らせるきのこの多くは、通常は枯木や枯枝などを腐らせることによって生活しています。もしこれらが存在しなかったら、森林内には枯木がうず高く積もることになるでしょう。「木が腐る」という現象にも色々な側面があるわけです。

2022年1月動画公開



②街路樹の根本付近に生えたサルノコシカケ類の一種ベッコウタケ。ベッコウタケは街路樹を腐らせる原因として最も重要な種のひとつ。



①強風によって倒れたギンドロの木(森林総合研究所構内にて)。幹の下部の材や根の一部はボロボロに腐っていた。

令和3年度 森林講座のお知らせ

YouTube「森林総研チャンネル」で公開中の森林講座のご案内

公開中

「気候変動でスギの成長は増える？ 減る？」
齊藤 哲 (関西支所)

「針葉樹が明かす光合成の進化」
宮澤 真一 (樹木分子遺伝研究領域)

「未知なる道の世界—森の中につくられた様々な道」
鈴木 秀典 (林業工学研究領域)

「永久凍土地帯に広がる酔っぱらいの森のナゾ」
藤井 一至 (立地環境研究領域)

公開予定

1月公開
「長生ききのこ「サルノコシカケ」の秘密」
服部 力 (研究ディレクター)

2月公開
「ナノのちからで木材を長く美しく」
石川 敦子 (木材改質研究領域)

「ツキノワグマの出没増加の背景と対策」
大西 尚樹 (東北支所)



◀◀◀動画はこちらから

「森林総研チャンネル」

<https://www.youtube.com/c/FFPRIchannel/>